

(様式1)

[年度] 平成30年度和歌山県農林水産試験研究成果情報

[成果情報名] かきオリジナル品種の開発

[担当機関名] 果樹試験場かき・もも研究所

[連絡先] 0736-73-2274

[専門分野] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

和歌山県のカキ産地では品種の分散化が課題となっており‘刀根早生’の出荷が終了する10月中旬以降に市場競争力の高い新品種の育成が望まれてきました。そこで、10月中旬以降に収穫可能で大果かつ高品質な完全甘ガキ品種の育成に取り組みました。

[研究の成果]

1. 有望系統‘ST11’（‘早秋’×‘太秋’）を平成29年3月に新品種‘紀州てまり’として品種登録出願し、平成31年4月に品種登録（登録番号第27401号）されました（図1）。
2. ‘紀州てまり’は350g以上の大果となり‘太秋’にくらべ着色が良好で、糖度が17%程度になります。条紋は発生せず汚損も少ないため外観が非常に優れます（表1）。
3. ‘紀州てまり’の着蕾数は、短い結果母枝ほど少ない傾向にあり特に若木のうちはその傾向が顕著にみられます（図2）。
4. ‘紀州てまり’の早期の生理落果率は、受粉しない条件下においても5%以下で少なく、単為結果力が強いと考えられました（図3）。
5. ‘紀州てまり’は果頂部のカラーチャート値が5以上になると果汁量が増え、食味も向上することが明らかとなりました。収穫後の日持ち性はカラーチャート値5~6で20日程度ですが、カラーチャート値7になると12日程度に低下します（表2）。



図1. ‘紀州てまり’の果実と結実状況

表1. ‘紀州てまり’の果実品質（H28~H30の平均）

品種	開花盛期	収穫盛期	果実重 (g)	果皮色(カラーチャート値)			果肉硬度 (kg)	糖度 (%)	果皮障害発生程度			
				果頂	赤道	果底			果頂裂果 ^z	条紋 ^y	へたすき ^x	汚損 ^w
紀州てまり	5/15	10/23	388.0	5.6	5.3	5.6	1.3	17.2	0.3	0.0	0.8	0.2
太秋	5/11	10/19	400.3	4.6	3.6	2.9	1.3	16.4	0.0	1.1	0.7	1.2
早秋	5/13	9/27	246.3	7.5	6.2	4.7	1.9	14.5	1.2	0.1	0.0	0.0

z: 果頂裂果 0: なし、1: 微、2: 小、3: 中、4: 大

y: 条紋 0: なし、1: 全体の30%未満、2: 全体の30~70%、3: 全体の70%以上

x: へたすき 0: なし、1: 微、2: 小、3: 大

w: 汚損 0: なし、1: 少、2: 多

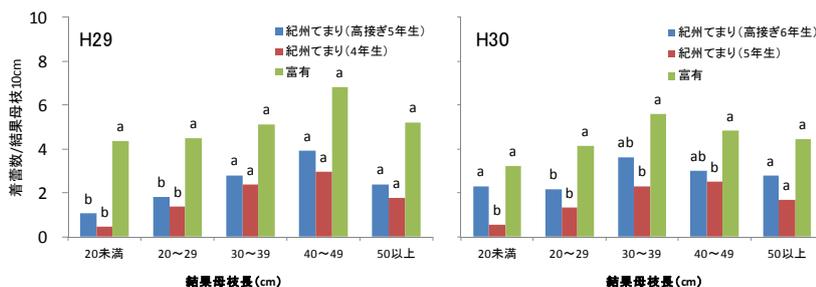


図2. ‘紀州てまり’の結果母枝長ごとの着蕾数
注) Tukeyの多重比較法により異文字間に5%水準で有意差あり

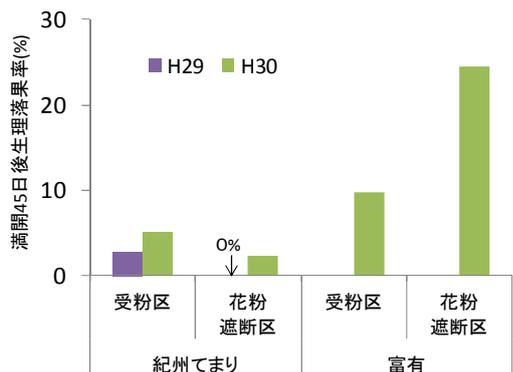


図3. 授粉の有無が‘紀州てまり’の生理落果に及ぼす影響
注) ‘富有’はH30のみ調査

表2. ‘紀州てまり’の果頂部カラーチャート(CC)値別の果実品質

年次	品種名	調査日	果実重 (g)	糖度 (%)	果汁の多少 ^z	軟化までの平均日数	
H29	紀州てまり	CC値5	10/12	375.4 bc	17.2 a	中	20.6 a
		CC値6	10/20	394.8 ab	16.8 ab	多	20.0 a
		CC値7	11/7	423.6 a	17.4 a	多	12.5 b
		太秋 ^y	10/20	356.1 c	16.0 b	多	20.2 a
		有意性 ^x		*	*	*	
H30	紀州てまり	CC値5	10/12	404.8	17.0 bc	中	21.7 a
		CC値6	10/22	436.6	17.8 ab	多	22.4 a
		CC値7	11/13	421.9	19.2 a	多	12.5 b
		太秋	10/22	412.6	15.5 c	多	23.6 a
		有意性		n.s.	**	*	

z: 少、中、多を官能により評価
y: 調査に用いた果実の果頂部のCC値の平均は2017年:4.4、2018年:4.5であった
x: Tukey-Kramerの多重比較法により**、*は同一年次内の異文字間にそれぞれ1%、5%水準で有意差あり、n.s.は有意差なしを示す (n=4-17)

[成果のポイントと活用]

1. 完全甘ガキ新品種‘紀州てまり’が品種登録され、平成30年12月より苗木の販売が開始されました。
2. 着果数を安定的に確保するためには剪定時に30cm以上の結果母枝を残すことが望ましいと考えられます。
3. 単為結果性が強く、生理落果は少ないため人工授粉や授粉樹の混植は不要ですが、年により一部の果実で後期落果が発生することがあります。
4. 果頂部カラーチャート値(かき用)が5未満の果実では果汁が少なく、7になると日持ち性がやや劣るため5~6程度での収穫が望ましいと考えられます。

[その他]

予算区分：県単（農林水産業競争力アップ技術開発事業）

研究期間：平成28~30年

研究担当者：古田貴裕、野中亜優美、熊本昌平

発表論文等：園芸学会平成31年度春季大会,園学研別1:281

ホームページ掲載の可否：可